

事務事業評価シート(多可町教育委員会)

1 事務事業の概要 <Plan①>		担当課 社会教育	課長名 内橋 茂	記入者 小林 良弘
事務事業名 スクラムハート・プロジェクト(消防団と中学生の交流)の推進		新規・継続 ☐ 新規 ☐ 継続	事業開始年度 19年度 H19以前	完了予定年度 年度 ☐ 未定
事務事業の体系				
計画 掲載	多可町総合計画	(章) 2 笑顔でつつむ、あったかいまち	(節) 2 学ぼう、活かそう	
	個別計画	(基本計画) 生涯学習の充実		
根拠法令・条例・要綱等		事業区分(該当する区分に「○」)		
		☐ ソフト事業	施設の維持管理	
		☐ 義務的事業	内部管理事務	
事務事業の具体的内容		☐ 建設・整備事業	計画などの策定	
各集落で、中学生が体験的に消防活動や地域防災の要となる人材を育てる本事業の活動を通して、消防団員には、中学生の顔を覚えてもらいながら、地域の先輩として後輩を導く力をより発揮してもらい、将来地域のリーダーとして活躍してもらえ、中学生には、地域の年代的な縦のつながりをつくり、地域にとけ込めるきっかけとなることをねらい、この事業の取り組みを核に地域住民の連携を深め、郷土を愛し、ともに支え合う地域づくりにつなげていく。		補助金の支給 有 ☐ 無 ☐	全部委託 ☐ 一部委託 ☐	
		委託 ☐	委託なし(全部直営)	

2 事務事業の目的 <Plan②>		
対象(働きかける相手・誰が・もの)	受益者(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)
中学生、消防団員、地域住民	中学生、消防団員、地域住民	中学生と消防団員をはじめ地域住民が顔見知りとなり、地域のつながりを深め広げる。 消防団員は、将来地域のリーダーとして活躍できる力を身につける。 中学生は、地域にとけ込むきっかけとするとともに防災に関する理解を深める。

3 事務事業にかかる予算細目 <Plan③>				会計名	一般	会計
細目名	その他保険料	細目名	細目名	細目名		
予算 コード	款 項 目 節 10 5 1 12	予算 コード	款 項 目 節	予算 コード	款 項 目 節	

4 事務事業実施にかかるコスト <Do①>						
事務事業・人員		単位	19年度 決算	20年度 見込	21年度 計画	備考 (全体事業費など)
総コスト			555	49	33	H19年度のみ 国の委託事業で実施
コスト の内訳	直接事業費	千円	58	49	33	
	所属内間接費					
	投入人員	人/年	0.20	0.20	0.10	
財源 内訳	国・県支出金		497			
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	千円	58	49	33	

5 事務事業の手段<Plan④>と活動指標 <Do②>							
事務事業を構成する業務		手段 (事務事業整理シートより)	活動指標 (手段の数値化)	単位	19年度 実績	20年度 実績	21年度 目標
1	事業方針の検討	学校、消防団、行政が 連携を図り実施する。	課内会議の回数	回	2	3	5
2	生活安全課との打ち 合わせ会		打ち合わせ会の回数	回	0	3	6
3	中学校・消防団との 事前検討会		検討会の回数	回	2	0	2
4	交流事業		事業の回数(各集落)	回	1	1	1
5	反省会		反省会の回数	回	0	1	1

(ソフト事業)

事務事業名 [スクラムハート・プロジェクト (消防団と中学生の交流) の推進]

6 事務事業の実績 <Do③>		19年度実績	20年度実績	21年度目標	備考 (成果指標の考え方・計算方法)
成果指標(意図の数値化)	単位				
中学生の参加率	%	—	78	90	H19年度は授業として実施
交流事業肯定率	%		82	85	事後アンケートより

7 事務事業の事後評価 <Check>				(ソフト事業)					
チェック項目				該当項目に「○」				担当の把握している課題	
必要性	需要への 対応性	住民ニーズは		高い		高くない	○ 把握なし		
		緊急性は		○ 高い		高くない	△		
		利用者・対象者数は		増加		減少	○ 横ばい		
		他市町と比較して対象者に見直しの余地は		ない		ある	○ 把握なし		
	町の関与 の必要性	民間の事業(サービス)との競合は		○ ない		ある	△		
		国や県の事業(サービス)との重複は		○ ない		ある	△		
妥当性	サービス 水準の 妥当性	事業開始時から社会環境の変化は		○ ない		ある	△		
		環境変化によるサービス水準の見直しの余地は		○ ない		ある	△		
		他市町と比較してサービス水準の見直しの余地は		ない		ある	○ 把握なし		
	連携の 可能性	他課で類似の事業は		○ ない		ある	△		
		他の事業と統合できる可能性は		ない		○ ある	あるが困難		
		民間や他の行政機関と連携できる可能性は		○ ない		ある	あるが困難		
効率性	手段・ プロセス の効率性	事務事業を構成する業務に見直しの余地は		ない		○ ある	△		
		コスト削減の観点から実施方法を見直す余地は		○ ない		ある	△		
		サービス向上の観点から実施方法を見直す余地は		○ ない		ある	△		
		受益者負担を見直す余地は		○ ない		ある	△		
有効性	目標の 達成度	成果指標が明らかで		ある		○ ない	△		
		前年より成果が上がって		いる		いない	○ 横ばい		
	持続の 可能性	継続することによる効果は		○ 高い		高くない	△		
		世代間負担の公平性、社会的平等性が保たれて		いる		○ いない	測定困難		
		事業の休・廃止による住民への影響は		大きい		○ 大きくない	△		
市場化の 可能性		既に全部委託済		更なる委託化が可能である			委託化の余地があり		○ 委託化は不可能
		市場化テストの導入について検討する余地がある				○	市場化テストの導入を検討する余地はない		
改善の可能性				1.改善の余地はない			2.改善の余地がややある		
				3.改善の余地が多い			4.抜本的な見直しが必要		

8 改善提案と今後の改善の方向性 <Action>		今後の具体的な取り組み			
職場からの意見		(課長としてこの事業をどのようにしていきたいか)			
(施策を取り巻く環境) 中学生と消防団が交流をしているが、他の世代の事業に対する関心は集落によって差が大きく、事業のねらいの達成にも大きく関係してくる。		この事業交流を継続する為には、学校、消防団、行政が密に連携を図り、地域住民の理解を得ながら継続して取り組む必要がある。			
(課題の解決についての提案など) 交流対象以外の世代にいかに関心を持ち、参加してもらえるか、地域住民への呼びかけをもっと増やす必要があると考える。		自己評価		4. 目標を大きく達成されている。	
今後の方向性	1.重点的に継続	2.現状のまま継続	○	3.内容を見直しながら継続	4.縮小を検討
	5.統合・連携を検討	6.休止・廃止を検討		7.終了・完了	